

第 20 回学会報告記

(Transcatheter Cardiovascular Therapeutics (TCT) 2016)

Transcatheter Cardiovascular Therapeutics (TCT) 2016 が、2016 年 10 月 29 日から 11 月 2 日の 5 日間の日程で、米国ワシントン DC で開催されました。TCT は、28 年前から始まった、心臓血管研究財団 (Cardiovascular Research Foundation、CRF) が主催する北米最大の循環器領域のカテーテル治療ライブコースであり、参加者は世界中から集まり 1 万人を超える規模となります。世界中の一流施設から中継をつなぎカテーテル治療のライブ映像を放映するプログラムを中心に、カテーテル治療に関する教育セッションや口演・ポスターでの演題発表も行われます。



1 学会会場

今年度の TCT はアメリカ東海岸ワシントン DC にある Walter E. Washington Convention Center で開催されました。ワシントン DC は、ポトマック川河畔に位置するアメリカ合衆国の首都であり、超大国の政府所在地として国際的に政治的影響力を保持する世界都市です。日本との時差は 13 時間、大阪伊丹空港から成田空港まで 1 時間半、成田空港からワシントン・ダレス国際空港まで 12 時間半かけての長旅でした。学会会場は綺麗な建物で、装飾も洗練されたデザインでした。現地では日本人参加者も多く、中国、韓国などの東南アジアやイギリス、フランス、ドイツ、オランダなどのヨーロッパなどの世界中のインターベンショナリストが参加しており、非常に活気がありました。



ワシントン DC 街並み



ホワイトハウス前

2 発表その他

10月29日（土）

石原隆行先生

Association between the Platelet Reactivity under Clopidogrel Treatment and the Severity of Angioscopic Intrastent Thrombus Following Drug-eluting Stent Implantation in The Femoropopliteal Artery

奥野翔太先生

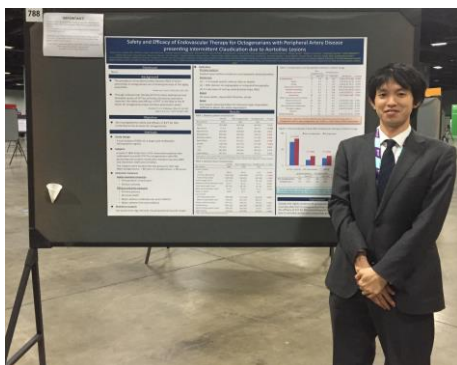
Safety and Efficacy of Endovascular Therapy for Octogenarians with Peripheral Artery Disease presenting Intermittent Claudication due to Aortoiliac Lesions

関西労災病院からはポスターセッションに上記 2 演題を発表致しました。

いずれの演題も末梢血管領域の内容で、血管内視鏡および多施設レジストリーを題材にした、“関西労災病院らしい” 発表でありました。

その他のポスター発表では、今後日本にも導入予定の生体吸収性スキャフォールド（bioresorbable scaffold、BRS）に関する発表が多く、議論が白熱しておりました。

また、海外学会の目玉の一つに、最先端の臨床試験の成績を報告する Late Braking Clinical Trial がありますが、今年の TCT では、IVUS ガイド PCI に対する OCT ガイド PCI の非劣性を示した ILUMINEN III 試験や、耐久性ポリマーDES に対する生分解性ポリマーDES の非劣性を示した BIO-RESORT 試験、LM 病変を有する患者における CABG に対する PCI の非劣性を示した EXCEL 試験などの結果が報告されていました。



ポスター前



ボクシングリングでのディベート

3 まとめ

私にとって初めての TCT 参加でしたが、世界随一のカテーテル治療学会とだけあって、世界最先端のデバイスと知識をライブや口演を通じて学ぶことができる非常に魅力的な学会でありました。

海外学会に参加するたびに、自分の英語力に至らなさを痛感しますが、当院で週 1 回行っている英語カンファレンスなどの英語に触れる機会を大事にしてひとつひとつ積み重ねながらステップアップしていきたいと思いました。そしてこれらを通じて日常の臨床業務にフィードバックできるよう研鑽を積んでいきたいと考えております。

以上、TCT 2016 学会報告記でした。